



そよかぜ

人と人のつながり

近年「人のつながりが希薄になった」といわれています。
 私たちは家庭・学校・職場・地域、様々な場面で、人と関わって生きています。
 特に地域は私たちにとって身近な暮らしの場です。地域とのつながりの中で「自分らしさ」を発揮することは、地域の「活力の源」になり、人と人がつながって、みんながいいきいと暮らせる豊かなまちをつくります。
 今号では『地域における 人のつながり』に着目し、2つの団体の活動をご紹介します。
 男性も女性も、子どもも大人も、みんなが手を取り合える「つながり」について考えてみませんか。

は じ い ち り ゅ う さ い ば ら か ぐ ら
土師一流催馬楽神楽
 わ し の み や さ い ば ら か ぐ ら
(鷲宮催馬楽神楽) 保存会



関東最古の大社鷲宮神社に伝わる催馬楽神楽を奏演しています。
 国指定重要無形民俗文化財に指定されている、歴史ある神楽を保存する保存会の皆さんの「**伝統を守り受け継ぐつながり**」について思いを伺いました。

く き は な
久喜花ボランティア
 は な わ か い
花の輪会



久喜駅前東口の花壇などで、草花を管理する緑化活動をしています。
 見る人みんなが安らげる「心のオアシス」を目指して、和気あいあいと楽しく活動されています。花の輪会の皆さんの「**心のつながり**」について伺いました。

※男女共同参画社会とは、男女が家庭や地域、職場などのあらゆる場に対等なパートナーとして参画し、自分らしくいきいきと暮らせる社会のことです。

土師一流催馬楽神楽(鷲宮催馬楽神楽)保存会	ページ 2
久喜花ボランティア花の輪会	3
情報コーナー・編集後記	4



は じ いちりゅう さい ぼ ら かく ら わしのみや さい ぼ ら かく ら ほ ぞん かい 土師一流催馬楽神楽(鷲宮催馬楽神楽)保存会

～ 伝統を次の世代につなげる～

土師一流催馬楽神楽(鷲宮催馬楽神楽)は、鷲宮神社に伝わる^{いすも}出雲流神楽で、神楽の各曲目に催馬楽が謡われることが特徴です。

昭和20年ごろ、神楽の伝承者が1人になってしまいましたが、当時の氏子総代と宮司の「絶対に神楽をなくしてはならない」という強い意志で、復興会(現在の催馬楽神楽保存会の前身)が発足しました。

○催馬楽…平安時代に宮廷で謡われた歌謡 ○神楽…神をまつる音楽や舞



▲ 伝承教室参加者の発表

保存会は、元日など年6回、鷲宮神社に神楽を奉納するほか、明治神宮をはじめ、日本各地や海外でも演奏しています。神楽の伝承教室を開催しており、興味のある人は誰でも参加できるため、県外から伝承教室に参加している方もいるそうです。また、鷲宮中学校の郷土芸能部(全国でも珍しい、神楽を伝承する部活動)や、鷲宮東中学校2年生の総合的な学習の時間においても指導を行っています。

かつて^{みこまい}巫女舞以外で女性が神楽の表舞台に出ることはありませんでした。しかし、昭和55年に鷲宮中学校郷土芸能クラブ(郷土芸能部の前身)が発足したとき、当時の鷲宮神社宮司の「やる気があって習いたいなら、女でも男でもいいじゃないか」との言葉から女子への指導が始まり、現在は女子部員の方が多く所属しています。



▲ 女性神楽師 野村さん(右) 伝承教室で指導中!

催馬楽神楽では女性の神楽師も活躍しています。女性神楽師 野村さんは「郷土芸能クラブの部活動をきっかけに神楽を始めました。日本の女性神楽師第1号として紹介されたことがありましたが、私は『周りの理解があってやらせていただいている』と思っています。国指定の文化財を受け継いでいるというプライドを持って神楽に取り組み、私に舞を教えてくれた師匠に一歩でも近づきたいです。」と話していました。

第1回全国神楽サミットのシンポジウムにおいて、神楽とは祈りの心を具現化したものと提唱されました。これを受けて、保存会の前会長は、女性が神楽を舞うことについて「神楽をやる上で祈りの心を持っているのならば性別は全く関係ないのではないだろうか。」と話していました。

★保存会の皆さんより

- ◆平成19年に天皇皇后両陛下ならびにスウェーデン国王ご夫妻に神楽を披露したことが、特に記憶に残っています。陛下から激励のお言葉をいただき感激いたしました。また、授業を終えた鷲宮東中学校の生徒から感謝の手紙をもらい大変嬉しかったです。
- ◆神楽殿に立つと「昔の人も同じ場所で演奏していた」と思い、歴史の重みを感じます。
- ◆形を変えずに伝え続けることが大事です。世代を越えて、私たちに受け継がれてきました。**私たちも同じように後の世代につないでいきたいですね。**



▲ 催馬楽神楽保存会の皆さん

- ・60年という風雪を神楽と共に歩み、その真摯な眼差しが鷲宮催馬楽神楽の名を全国に轟かせることとなった会長さん。海のように深い情熱は神様にも届いていることでしょう。
- ・保存会の皆さんよりお話を伺い、伝統を守る誇りと共に、真剣に勝負している雰囲気があり、その迫力に圧倒されました。
- ・「伝統を受け継ぎ、次の世代に伝え続ける」由緒ある神楽を復興し、守り続けている皆さんの、人生をかけた誇り高い姿は輝いています。

久喜花ボランティア 花の輪会

～花を通じて人の輪を広げていきたい～



▲ 高齢者大学生の皆さんと花の植替え
(久喜駅東口ロータリー内花壇にて)

花の輪会は、毎週火曜日と土曜日に、指定の活動場所の花壇を管理しています。高齢者大学の皆さんとも、月2回一緒に活動しています。春と秋には花の植替えをしています。

2002年に設立して今年で14年目を迎え、現在会員は30名を超えています。

○ 活動場所…久喜駅東口花壇、久喜駅東口ロータリー内花壇、久喜駅東口三角パーク、久喜駅西口プランター、吉羽児童公園、久喜市総合運動公園100坪花壇



日々の活動では、力仕事や細かい仕事など、**みんなが協力して助け合いながら**得意なことを活かして作業します。

特に水やりは大変で、水道がない場所や交通量が多い場所でも作業しなければなりません。そんな時も自然にみんなが集まり、力を合わせて、ジョウロやバケツで水を運びます。夏場の暑い時期は、活動日以外でも、みんなで交代して水やりをしています。



▲ 久喜駅東口花壇の水やり



▲ 花の輪会の皆さん お茶会でホッと一息 (久喜市総合運動公園にて)

★花の輪会の皆さんより

- ◆ みんな「植物が大好き」という趣味を持っているので、作業終了後のお茶会が楽しみです。花見や、年1度の花を訪ねての日帰り旅行も行っています。
- ◆ これまで会社ばかりだったので、地域のつながりが広がり嬉しい！

- ◆ 市民の皆さんに「きれいですね」「ご苦労さま」と声をかけられたり、通りかかった親子が「きれいなお花が咲いているね!」と話している様子を耳にしたりします。心が弾み、嬉しくてもっと頑張ろうという気持ちになります。市民の皆さんに『心のオアシス』とだけ思ってもらえるような安らぎの場所をつくってまいります。
- ◆ 雑草取りが大変。雑草除けのシートを張るなど工夫をしています。
- ◆ 多くの花を植えるために、一部自分たちで苗づくりをしたり、支柱を手作りしたりなど、工夫をしています。市民の皆さんの笑顔づくりに一役買えたら私たちも幸せです。興味のある方は一緒にやりませんか！
- ◆ 花は誰にとっても心安らぐ美しいものです。地域の皆さんが花を見て、周りの人と話をするきっかけになってほしいと思っています。『花の輪会』の名前通り、**花を通じて人の輪を広げていきたいです。**

編集員の声

- ・ 花大好き、土いじり大好きの皆さんですが、美しい花壇は日ごろの地道な努力あってこそ。汗を流した後お茶をする会員さんたちには笑顔が溢れ、花以上に美しく感じました。
- ・ キレイである事が普通と感じている駅前などの花壇。多くの苦労がありながらも、仲間とのふれあいを楽しみ、沢山の方の『心のオアシス』を目指し活動されている皆さんを素敵だなと感じました。
- ・ 「人生経験が多彩な方々の集まりなので、作業中やレクでのいろいろな話は、園芸だけでなく、自分を高め、広げてくれるものが多くて楽しい!」とお話してくださった笑顔がとても印象的でした。

第12回 男と女のつどい

平成27年6月27日(土)、中央公民館において「男と女のつどい」を開催しました。この催しは、久喜市と「女と男いきいきネットワーク久喜」との共催で毎年行っているものです。当日はワークショップや作品展示のほか、喫茶コーナー、子ども広場、パルンアート、舞台発表などが行われ、多くの市民の皆さんでにぎわいました。

記念公演として、『人形劇団久喜どんぐり』の手作り人形によるステージが行われました。会場は満員で、心温まるひと時になりました。中でも「腹話術けんちゃん」は大好評で、子どもも大人も、笑いが絶えませんでした。



▲ 大集会室での舞台発表

1日体験学習ツアー

平成27年6月9日(火)に、男女共同参画について学習するバスツアーを開催しました。

埼玉県防災学習センター（鴻巣市）を訪問し、地震や暴風の体験やビデオの視聴などを通じ、家族や地域、みんなで備える防災について考えました。また、グリコピア・イースト（北本市）では、ポッキーなどを製造しているお菓子工場を見学し、世界中で愛される食文化について学びました。



▲ 埼玉県防災学習センター



▲ グリコピア・イースト

毎年6/23～6/29は「男女共同参画週間」です。久喜市では毎年6月を男女共同参画推進月間として、つどいやバスツアーを開催しています

女性の悩み(カウンセリング)相談

お子さんやご家族、ご夫婦に関すること、配偶者等からの暴力に関すること、自分の生き方や人間関係等、女性の様々な悩みや心配事について、お気軽にご相談ください。相談の費用は無料です。また、相談に関する秘密は固く守ります。

相談日程 第1・第3金曜日 13時～17時
面接相談もしくは電話相談

相談会場 久喜市役所（本庁舎）

相談時間 1人50分

対象 市内在住・在勤・在学の女性

相談員 女性カウンセラー(臨床心理士)

申込方法 相談は予約制です。電話または窓口で人権推進課（下記連絡先）までお申し込みください。

※相談日程・会場について、詳しくは人権推進課までお問合せいただくか、広報くきをご覧ください。

女と男いきいきネットワーク久喜 会員募集します

私たちは久喜市内で活動する団体及び個人が、ゆるやかにつながり、互いに交流し、情報交換しながら、男女共同参画の推進に取り組んでいます。久喜市との共催で「男と女のつどい」や「女性議会」を開催したり、毎年2月に行われる「With Youさいたまフェスティバル」での活動展示などを行っています。皆さんのご加入をお待ちしています。

申し込み・問合せ 同団体会長 倉持まで
電話/FAX 0480(22)4545

そよかぜの編集員を募集します！

「そよかぜ」は、市民の編集員により企画・編集されています。男女共同参画や情報紙づくりに関心のある皆さん、一緒に情報紙をつくってみませんか。月1回程度、編集会議を行っています。

募集人数 5人

応募方法 人権推進課（下記連絡先）までお問い合わせください。

久喜市は、お互いを認め合える社会を築くため、「人間尊重・平和都市」を宣言しました

編集後記

紙面の都合で2団体だけの紹介となってしまいましたが、久喜市内には、他にも魅力的な活動をされている団体がたくさんあります。今号が、皆さんの周りで新しい「つながり」を見つけるきっかけになれば…と思います。

今回の取材にご協力いただきました全ての方々に、心よりお礼申し上げます。

編集スタッフ 工藤憲代・黒澤義美・佐竹淑子・佐藤怜子・永沼ひとみ・野澤浩美・菱沼千恵子・廣瀬守明

男女共同参画情報紙「そよかぜ」のバックナンバーは、久喜市ホームページからご覧いただけます。

◆発行/久喜市総務部人権推進課

〒346-8501 久喜市下早見85-3

電話：0480-22-1111(内線2322) FAX：0480-22-3319 メールアドレス：jinken@city.kuki.lg.jp

この情報紙は60,000部作成し、1部あたりの単価は3円です。

